2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月４日

上 場 会 社 名　　株式会社サックスバー ホールディングス　　上場取引所　　東
コ ー ド 番 号　　9990　　URL　http://www.sacs-bar.co.jp
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長執行役員　（氏名）　木山　剛史
問合せ先責任者　（役職名）　取締役専務執行役員　　（氏名）　山田　陽　　（TEL）03-3654-5315
半期報告書提出予定日　　2026年11月11日　　配当支払開始予定日　　ー
決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有　（機関投資家及びアナリスト向け ）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	25,384	3.5	1,347	△1.5	1,435	1.2	853	△0.9
2026年３月期中間期	24,531	△3.9	1,368	△28.4	1,418	△27.3	860	△30.1

（注）包括利益　2027年３月期中間期　757百万円（△11.5%）　2026年３月期中間期　855百万円（△30.5%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	29.25	ー
2026年３月期中間期	29.63	ー

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	41,319	30,811	74.6
2026年３月期	41,714	30,889	74.1

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　30,811百万円　　2026年３月期　30,889百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	ー	0.00	ー	35.00	35.00
2027年３月期	ー	0.00			
2027年３月期(予想)			ー	35.00	35.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,513	4.4	3,348	5.8	3,426	5.1	2,112	10.8	72.44

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	29,859,900株	2026年３月期	29,859,900株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	582,376株	2026年３月期	803,864株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	29,166,293株	2026年３月期中間期	29,056,096株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更について）

当社の中間連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第１四半期連結会計期間及び第１四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前中間連結会計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2026年11月26日（木）に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算補足説明資料については、同日、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、米国の通商政策の影響や為替の変動、中東やウクライナなどの地政学的リスクの長期化等により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

流通業界におきましては、インバウンド需要の拡大や円安などの影響により訪日客の購買が活発化し、好調に推移しました。内需においては、原材料価格やエネルギー価格の高騰に伴う物価上昇を背景とした節約志向が定着し、生活防衛意識の高まりから、選別消費が継続しております。さらに、人手不足や人件費の上昇に加え、物流費や諸経費が増加し、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループの当中間連結会計期間の売上高は25,384百万円(前年同期比3.5%増)となり、営業利益は1,347百万円(前年同期比1.5%減)、経常利益は1,435百万円(前年同期比1.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は853百万円(前年同期比0.9%減)となりました。なお、熊本県における地震及び千葉県における水害により被災した店舗の棚卸資産の毀損に伴う損失等79百万円を、災害による損失として計上いたしました。

なお、当社グループの報告セグメントは、鞄・袋物を核とする商品販売の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。

事業部門ごとの状況は、以下のとおりであります。以下の数値につきましては、事業部門内の取引消去後かつ事業部門間の取引消去前のものを記載しております。

〈小売事業等〉

小売事業につきましては、５店舗の新規出店を行なうとともに、７店舗の退店を行ない、当中間連結会計期間末の店舗数は565店舗となりました。

売上につきましては、インバウンド需要の堅調な下支えに加え、国内需要も好調に推移し、既存店売上高前期比が4.2%増となりました。

品種別の売上では、プライベートブランド(PB)及びナショナルプライベートブランド(NPB)は、ドラゴンクエストをはじめとする人気キャラクターとのコラボ商品が好調であったことに加え、店舗での取り組みの強化により、前年同期比3.0%増となりました。雑貨は、キャラクター雑貨等を中心に販売数量が引き続き大きく伸長し、前年同期比67.8%増と大幅に増加いたしました。メンズバッグは、高額ブランド商品の値上げにより販売数量が減少いたしましたが、平均単価は上昇しており堅調に推移しております。しかしながら、前期まで全てメンズバッグに一括して計上しておりました株式会社ギアーズジャムの売上を、新POSシステムの導入に伴い財布・PB・トラベルバッグ等へ振り分けたことにより、前年同期比8.7%減となりました。財布は、販売数量は減少したものの、高額ブランド商品の値上げにより単価が上昇したことにより、前年同期比2.2%増となりました。トラベルバッグは人気ブランドが好調に推移し、販売数量・平均単価がともに増加し、前年同期比4.3%増となりました。インポートバッグは、円安による価格高騰を背景に取扱いを縮小したことから、前年同期比26.9%減となりました。ハンドバッグは、一部セール品の販売が寄与し単価は下落したものの、販売数量が増加したため、前年同期比9.3%増となりました。カジュアルバッグは、PB、NPBにおける同種商品の取扱いの増加の影響を受け、前年同期比14.1%減となりました。

これらの結果、当事業部門の売上高は23,447百万円(前年同期比3.7%増)となりました。

売上総利益率は、粗利益率の低いキャラクター雑貨等の売上が伸長したものの、粗利益率の高いPB及びNPBの売上も伸長したため、前年同期比0.1ポイント増の50.3%となりました。販売費及び一般管理費率は、前年同期比0.4ポイント増の45.4%となりました。

〈製造・卸売事業〉

製造・卸売事業においては、主力商品であるキャリーケースのうち、キャラクターコラボ商品やoltimoのワンタッチオープンタイプのスーツケースの売上が好調に推移いたしました。

この結果、当事業部門の売上高は2,367百万円(前年同期比3.1%増)となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて395百万円減少し、41,319百万円となりました。これは主に、商品及び製品が605百万円増加、有形固定資産が118百万円増加した一方で、現金及び預金が143百万円減少、受取手形及び売掛金が885百万円減少、投資有価証券が100百万円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて317百万円減少し、10,507百万円となりました。これは主に、未払法人税等が143百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が64百万円減少、その他流動負債が280百万円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて78百万円減少し、30,811百万円となりました。これは主に、剰余金の配当1,016百万円による減少、親会社株主に帰属する中間純利益853百万円の計上等によるものであります。

（自己資本比率）

当中間連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べて0.5ポイント増の74.6％となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて152百万円減少し、5,604百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、前中間連結会計期間に比べて394百万円収入が減少し、1,537百万円のプラスとなりました。主な収入要因は、税金等調整前中間純利益の計上額1,344百万円、売上債権の減少額885百万円であります。一方、主な支出要因は、棚卸資産の増加額685百万円、法人税等の支払額335百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、前中間連結会計期間に比べて1,281百万円支出が減少し、527百万円のマイナスとなりました。主な支出要因は、新規出店及び改装等に伴う設備投資489百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、前中間連結会計期間に比べて534百万円支出が増加し、1,161百万円のマイナスとなりました。主な支出要因は、割賦未払金の減少額72百万円、リース債務の返済による支出78百万円、配当金の支払額1,014百万円であります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、2026年５月15日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,804	5,661
受取手形及び売掛金	4,262	3,376
商品及び製品	12,884	13,490
原材料及び貯蔵品	24	32
その他	237	233
流動資産合計	23,214	22,795
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,102	3,225
土地	2,533	2,533
リース資産（純額）	356	298
建設仮勘定	891	848
その他（純額）	210	306
有形固定資産合計	7,094	7,212
無形固定資産	175	161
投資その他の資産		
投資有価証券	4,092	3,991
退職給付に係る資産	307	302
繰延税金資産	713	694
敷金及び保証金	5,594	5,598
その他	529	571
貸倒引当金	△6	△8
投資その他の資産合計	11,230	11,150
固定資産合計	18,500	18,524
資産合計	41,714	41,319

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,273	3,208
1年内返済予定の長期借入金	800	800
リース債務	148	137
未払法人税等	364	507
賞与引当金	359	382
役員賞与引当金	50	28
株主優待引当金	39	12
その他	2,066	1,786
流動負債合計	7,102	6,863
固定負債		
長期借入金	500	500
リース債務	287	227
役員退職慰労引当金	176	37
退職給付に係る負債	1,108	1,143
繰延税金負債	14	15
資産除去債務	1,300	1,293
長期未払金	257	340
その他	77	86
固定負債合計	3,721	3,644
負債合計	10,824	10,507
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,986	2,986
資本剰余金	4,569	4,617
利益剰余金	23,441	23,277
自己株式	△483	△350
株主資本合計	30,513	30,530
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△89	△158
退職給付に係る調整累計額	465	438
その他の包括利益累計額合計	376	280
純資産合計	30,889	30,811
負債純資産合計	41,714	41,319

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	24,531	25,384
売上原価	12,318	12,735
売上総利益	12,213	12,648
販売費及び一般管理費	10,845	11,300
営業利益	1,368	1,347
営業外収益		
受取利息	46	57
受取配当金	1	2
受取保険金	－	44
受取手数料	2	2
その他	16	12
営業外収益合計	67	119
営業外費用		
支払利息	13	18
その他	3	14
営業外費用合計	17	32
経常利益	1,418	1,435
特別損失		
固定資産除却損	26	8
減損損失	3	2
災害による損失	－	79
特別損失合計	29	90
税金等調整前中間純利益	1,388	1,344
法人税、住民税及び事業税	366	427
法人税等調整額	161	63
法人税等合計	527	491
中間純利益	860	853
親会社株主に帰属する中間純利益	860	853

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	860	853
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	△68
退職給付に係る調整額	△1	△26
その他の包括利益合計	△5	△95
中間包括利益	855	757
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	855	757
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,388	1,344
減価償却費	282	291
減損損失	3	2
災害による損失	－	79
のれん償却額	16	16
貸倒引当金の増減額（△は減少）	－	2
賞与引当金の増減額（△は減少）	18	22
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△21	△21
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△3	△138
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△0	35
受取利息及び受取配当金	△48	△60
支払利息	13	18
固定資産除却損	26	8
売上債権の増減額（△は増加）	923	885
棚卸資産の増減額（△は増加）	△140	△685
仕入債務の増減額（△は減少）	△60	△64
未払消費税等の増減額（△は減少）	33	49
未払金の増減額（△は減少）	△24	△271
未払費用の増減額（△は減少）	△76	△73
その他	114	395
小計	2,444	1,836
利息及び配当金の受取額	32	50
利息の支払額	△13	△18
法人税等の支払額	△531	△335
法人税等の還付額	0	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,932	1,537
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△9	△9
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,746	△489
有形固定資産の除却による支出	△37	△28
投資有価証券の取得による支出	－	△1,000
投資有価証券の売却による収入	－	1,000
関係会社株式の取得による支出	△15	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,808	△527
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	400	－
長期借入金の返済による支出	△100	－
割賦未払金の増加額	106	3
割賦未払金の減少額	△76	△72
リース債務の返済による支出	△87	△78
自己株式の取得による支出	△0	－
配当金の支払額	△870	△1,014
財務活動によるキャッシュ・フロー	△627	△1,161
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△504	△152
現金及び現金同等物の期首残高	5,733	5,756
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,229	5,604

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

当社グループの報告セグメントは、鞄・袋物を核とする商品販売の単一セグメントであるため、セグメント情報について記載しておりません。